



日本VS.パラグアイ

この話をお読みになる際、音を聞ける状況であれば、下記を右クリックし、新しいウインドウやタブなどで開いて、下の方のドラム・マジョレット（ダイヤモンドサッカーテーマ曲）を視聴してお読みください。

[＜テーマ曲＞](#)

金子：全国のサッカーを愛する皆さん、こんにちは。

いよいよ、日本のサッカーに新たなページを書き記す日がやってきました。

カメルーン、オランダ、デンマークとの激しい戦いの末、見事に勝ち抜いた予選リーグ。ここから先は一発勝負の決勝トーナメントになります。今日の実戦相手はパラグアイ。南アフリカ プレトリア ロフタスバーフェルドスタジアムにサムライブルーが力強く輝いています。いつものように解説は日本サッカー協会最高顧問 岡野●一郎さんです。さあ、岡野さん、いよいよベスト4に向けた日本代表の第2章が始まりますね。

岡野：はい。2002年にも同じ舞台を踏んでいますが、あのときは自国開催の地の利がありました。今回は距離でいえば日本が一番遠い国。実力でつかみとったベスト16といえるでしょうね。

金子：今回の日本代表の戦いぶりについて、岡野さんはどう見ておられますか？

岡野：非常に落ち着いた試合運びだなという印象です。もちろん、胸には秘めたものがあるでしょうが、うわついたところがありません。

金子：その要因はどこにあるんでしょう。選手の成熟ですか。

岡野：やはりこれまでの積み重ねということではないですか。先ほど金子さんが第2章とおっしゃったけれども、もっと長いスパンでみれば、何十章も重ねてきたわけです。その間に、メキシコ五輪の銅メダル、どん底の時代、ドーハの悲劇、とさまざまストーリーがありました。その末の今日の戦いということだと思います。

金子：そうですね、ダイヤモンドサッカーでワールドカップを初めてご紹介したのが1970年大会。1974年には初めて決勝戦を生放送しました。ベッケンバウアー率いる西ドイツと、あのクライフのオランダでした。

岡野：懐かしいですね。当時はまだベルリンの壁があった。あの壁が20世紀中になくなるのと同じくらい、日本代表がワールドカップでベスト4をめざすことになるとは、誰も考えなかったでしょうね。

金子：はい、なにしろ日本にはプロ選手さえいなかった。

岡野：そう。奥寺君までね。やはりJリーグの誕生というのが大きかったですね。そこで活躍して、世界のクラブへと巣立つ選手が増えていった。世界のトップクラスのプレーに間近でふれることができたことが、日本の底上げにつながったんだと思いますね。

金子：はい。本田も稲本も松井も、そして俊輔も海外でプレーして大きくなっていきましたね。

岡野：もうひとつJリーグの大きな功績は地元根付いたプロスポーツというものができたということなんです。それによって国民のサッカーへの注目度が上がりました。

金子：はい

岡野：このスタジアムにも多くのサポーターがかけつけてくれていますが、これも昔はあり得なかった。

金子：デンマーク戦に勝ったので、またサポーターの数が増えたようですね。

岡野：はい、本当にありがたいことだと思います。注目度があがり、時には厳しい意見にもさらされるから選手は強くなれるんですよ。

金子：今夜勝ったら、日本はたいへんなことになるんじゃないですか。

岡野：そう、サッカーに限らずスポーツはナショナリズムの高揚という役割を持っています。その意味でも今回の日本

代表の活躍は意義深いですね。

金子：なるほど。おっ、いよいよ選手の入場のようです。長谷部キャプテンを先頭にして日本のイレブンが入ってきました。いつものようにベンチの選手たちも肩を組んでいます。岡野さん、やってくれそうですよ。

岡野：日本でご覧の皆さんも含めていっしょに戦う90分にしたいですね。

金子：岡野さん、120分間の死闘となりました。ついにPK戦で敗れはしましたが、日本代表は実によく戦ったと思いますがいかがですか。

岡野：そう思いますね。2002年は90分間でトルコに敗退しましたが、今回はPK戦までもつれこんだ。ただ、日本のよさを発揮できたかという点、悔いの残る試合にもなりました。終盤、玉田を入れて点を取りに行ったことは評価できますが。やはりデンマーク戦のような攻撃への積極性も欲しかったと思います。

金子：これもまた、経験ですか。

岡野：そうですね。パラグアイも南米予選から強豪にもまれる経験をして、今回初めてのベスト8なんですから。今日の試合はパラグアイが勝者にふさわしい戦いをしたと思いますよ。じゃあ日本はどうすれば、さらに上に行けるのか。それをこれからの4年間で考え、チャレンジしていくしかないんです。

金子：それにしましても、サムライブルーの勇士たちは本当に最後まで一丸となって戦いました。

岡野：本当ですね。おつかれさまと声をかけてあげたいと思います。

金子：そして、ありがとうといたいですね。この時間はプレトリアから、ワールドカップ2010 決勝トーナメント、日本VSパラグアイの試合をお送りしました。残念ながら破れはしましたが、日本サッカーに歴史の新たな1ページが刻まれたのは間違いのないと思います。解説は日本サッカー協会最高顧問、岡野●一郎さんでした。岡野さん、ありがとうございました。

岡野：ありがとうございました。

金子：それでは、全国のサッカーを愛する皆さん、ごきげんよう、さようなら。

(この話はフィクションです。登場する人物は実際の人物とは関係ありません)

ドイツVS.アルゼンチン

金子：岡野さん、この試合の前に、ブラジルがオランダに敗れましたね。

岡野：ええ。力ではブラジルが上回っていたと思いますが、ピッチ内に強力なリーダーがいなかったのが響きましたねえ。かつてのドゥンガやブランコのような存在があれば、逆転された後ももっと戦術的に戦えたでしょうね。

金子：さて優勝候補の一角が消えました。そして今日はドイツVSアルゼンチンです。岡野さんはこの戦いをどうみますか。データ的には対戦成績全体ではアルゼンチンがリードしていますが、ワールドカップでは2勝2分け1敗でドイツがリードしています。

岡野：非常に対照的なカラーの対決ですね。データにもあるように、ドイツというチームは西ドイツ時代含めて、ワールドカップでは非常に強い。過去延長戦で2点リードされながら、2点取り返してフランスに勝ったこともありました。ゲルマン魂と言われるのはそういう勝負強さを象徴した言葉なんですね。

金子：はい。前回のドイツ大会でも準決勝で対戦して、PK戦でドイツがアルゼンチンを破っています。

岡野：ですから、メッシを中心としたアルゼンチンの攻撃力が、ドイツの守りをこじあけられるかどうかがかぎになりますね。イグアイン、テベスといった好調FWで3点をとれば、アルゼンチンでしょう。2点リードでは安心できませんね。後半のドイツは強いですよ。今回は若手中心でスタミナもあります、エジル、ミューラーが調子をあげ、クロウゼが健在です。

金子：では、アルゼンチンは取れるうちに点をとっておくという戦術ですか。

岡野：私はそれがいいと思いますね。前の試合でブラジルも前半2点入れていればオランダのあせりを誘ったかもしれない。いつでも点がとれそうだったときにスキができます。ドイツはそれを許さないでしょう。

金子：では守り合いにはなりませんか

岡野：マラドーナ監督の性格からいってもそれは考えにくい。ただ結果として0：0で進行することはありえますね。私はアルゼンチンが下手に前半得点するより、むしろ0-0の方がアルゼンチンに勝機があるような気がします。後半30分すぎにゴールを入れて逃げ切るような展開ですね。それには、突破力のあるエジルを抑えることでしょうね。

金子：日本を破ったパラグアイとスペインの一戦はどうですか。

岡野：スペイン勝利が順当でしょう。シュートの数でもずばぬけていますね。パラグアイに勝機があるとすれば、セットプレーからの先制点がとれるかどうかでしょう。あとは集中砲火をあびながら逃げ切るしかありません。

金子：では、スペイン対ドイツまたはアルゼンチン戦はになりそうですね。

岡野：スペインにとってはたぶんドイツ相手の方がいやでしょう。ただ、U-18時代から育て上げたこれだけの名選手がいるのですから、ぜひ今回はスペインのサッカーの歴史を書き換えて欲しいですね。

金子：そうなりますと、今回の決勝戦はどうなりますか。

岡野：希望から言えば、オランダVSスペインで、どちらが勝っても初優勝というカードですね。ウルグアイはスアレスが出られないのがなんとも痛いです。やはりオランダだと思います。

金子：歴史的にいきますと、オランダVSドイツなら1974年大会の決勝戦、ダイヤモンドサッカー初の生放送ゲームと同じ組み合わせ。オランダVSアルゼンチンであれば、1978年のアルゼンチン大会決勝と同じ組み合わせとなりますね。

岡野：そうですねえ。オランダにとってはまさに世紀を超えたりベンジ。優勝していない中の最強国というやや不名誉

なレッテルを取り去ることができるかということになりますね。

金子：いずれにしても楽しみなカードが続きます。では今日の試合に注目しましょう。

金子：前半終わって、逆にドイツリードという展開になりました。

岡野：アルゼンチンは苦しくなりましたね。ドイツのオフサイドラインにひっかかりすぎてます。テベスあたりが前がかりですので、もう1枚メッシを追い越す選手がでてくれば、テベスがおとりになって突破できるかもしれませんね。

金子：なるほど、確かに何度もオフサイドをとられてますね。

岡野：ミドルレンジのシュートが枠に飛んでいけば、その跳ね返りをねらえるのですが、それもうまくいっていない。サイドから崩したいのですが、ドイツのセンターが高いですからね。

金子：となると、なかなか決め手に欠けますか。

岡野：今のままではいけないでしょうね。もちろん、一瞬のスキというのがありますからドイツも油断したらやられます。また、ベロンを投入してメッシを少し楽にしてやるような策も必要でしょうね。

金子：一方、1点取ってからのドイツの攻撃も決め手にかけてましたが。

岡野：安全策をとってる感じですね。早めにシュートを打って終わらせたいと。サイドをあげたままにしておきたくないという意図だと思います。もしも同点にされたら、またシフトを変えるんじゃないですか。

金子：なるほど。ではそのあたりに注目しながら、後半戦を見てみましょう。

金子：なんとドイツが4点をあげ、圧倒的勝利でアルゼンチンを下しました。いや、驚きましたね。岡野さん、いかがですか。

岡野：ドイツはチームで戦い、アルゼンチンはチームになっていなかったという感じでしたね。やはりメッシが合流した後、個人技では勝てたものの、本当のチームプレーが完成しないまま本戦を迎えたということなのでしょう。マラドーナ監督がメッシに気を遣い、メッシを中心のチームとあまりに言い続けたため、メッシをサポートしようとする動きがほとんど見られませんでしたね。ここまで彼もそれに応えてきてしまったというのも、ある意味では悲劇だったように思います。

金子：一方のドイツはこれで完全に波にのりました。2試合連続4得点。クローゼが2得点をあげW杯通算14ゴール目を記録しています。そして若きストライカー、ミューラーも実にいい動きで先制点をあげました。ドイツの強さが光りましたね。

岡野：ええ。ベテランと若いエジルやミューラーが絡んでとてもいいチームになりましたね。クローゼやラームも輝き始めた。正直なところ戦前はここまでやれるとは私も思ってなかったのですが。

金子：この大会前、ラームがキャプテンということで、元代表GKのカーンが疑問を呈しましたが、それを見事に跳ね返す活躍だと思います。それと、岡野さん、我々はミューラーといえば、ボンバー=爆撃機、ゲルハルト・ミューラーを思い出しますが、ドイツに新たな新星が現れました。

岡野：本当ですね。スタミナもあり、相手DFの懐をすり抜けるのが実にうまい選手ですね。将来的にも期待できると思いますよ。ただ、次のスペイン戦で彼が出場できないというのは、かなり厳しい状況に思えます。エジルとミューラーのコンビネーション、ミューラーとクローゼの距離感が得点のカギを握っていましたから。

金子：なるほど。では、そのあたりがひょっとすると明暗を分けることになるかもしれませんね。

岡野：ええ。いずれにしても、1点を争う好ゲームになるでしょう。

金子：ドイツ対スペイン。どんな試合になるのか、大いに期待しましょう。

スペインVS. ドイツ 準決勝戦

金子：岡野さん、ドイツVSスペインですよ。皆さんも見たかったカードではないですか。

岡野：準決勝にふさわしい華やかなカードになりましたね。ここまで苦しみながらも、華麗なパス回しであがってきたスペイン、そして決勝トーナメントに入り、イングランド、アルゼンチンを相手に4-1、4-0と徐々に強さを増してきたドイツ。戦い方も違いますし、たいへん面白い試合になるでしょうね。

金子：一方のブロックはついにオランダが勝ち上がりました。32年ぶりですね。岡野さん。

岡野：もともと優勝候補でしたが、やはり攻撃陣のタレントの豊富さがここに来て光っています。前線への持ち込み部隊が、シュナイデルとロッベン、カイトと3人いますから、相手チームはマークはしきれませんね。オランダ国民は悲願の優勝をほんとうに願っているでしょうね。

金子：はい。ウルグアイもがんばりましたが、とうとう南米勢が全て消えました。

岡野：これは少し意外でしたねえ。ベスト8の半分南米勢でしたから。

金子：これで残っている優勝経験国はドイツだけということになりましたね。

岡野：何度も言いますが、ドイツはW杯では無類の強者ですね。今日の試合でワールドカップは99試合目。ブラジルを抑えて単独1位になります。常に上位に進出している証拠でしょう。

金子：ゲルマン魂は健在でした。しかし今日の相手のスペインとはユーロで負けている相手ですが、どう見てらっしゃいますか。

岡野：メンバー的にドイツはかなり変わりましたし、戦い方も変わっている。ユーロの時にはこれほど早い攻撃陣はいませんでしたから。それに加えてクローゼが好調な動きですので、攻撃パターンが豊富といえます。

金子：スペインの方は？

岡野：厳しい試合を勝ち上がったということは認めますが、本来のスペインであればもっと楽にここまで来ていたはずですよ。やはりトーレスの不調は大きいですね。彼が分水嶺のようになって、ビジャやシャビ、イニエスタとどこに球が流れていくのかわからないというカタチにしないと厳しいです。

金子：今日はトーレスは先発を離れるという憶測もあるようですが。

岡野：ドイツ相手では、今のトーレスでは厳しいでしょうから、それも賢明な処置だと思いますね。

金子：では岡野さんのイメージでは6：4でドイツですか。

岡野：過去の実績からいえばそうなります。ドイツはスペインにとっては、どこよりも難敵といえるでしょうね。ブラジルやオランダの方がまだ与しやすかったはずですよ。もちろんサッカーではなにが起きるかわかりません。最初にいきなりPKで試合が決まるということもありますからね。

金子：ドイツVSオランダという36年前の再現も楽しみですし、スペインVSオランダでどちらが勝っても初優勝というのを見てみたい気がします。

岡野：そうですね。スペインが今日勝てば、初優勝はかなり現実味を帯びてきます。しかし、負けると3位決定戦のウルグアイも危なくなる。3位決定戦がドイツとウルグアイであればドイツでしょうね。

金子：それは？

岡野：スペインは今大会、守備力のあるチームにかなり苦戦しているということです。初戦のスイスもそうでしたが、ドイツ、ウルグアイあたりは守りが堅いので厳しいですよ。パスワークが巧みですから、パスは回るのですが、ちょっと攻撃が単調になりがちです。もう少しチェンジオブペースがないと、細かいパス回しが確かに脅威ですが、相手は守りやすいと思いますね。幸い体力があったので、なんとか持ちこたえましたが、ビジャを抑えられたら、決め手にかけるように見えますね。

金子：そのあたり、今日のゲームでも見所になるでしょうか。

岡野：はい。ドリブラーもパサーも豊富ですが、これだけの数のシュートを放っている割にゴールが少ないというのが、決定力不足ともいえるわけです。決めているのはビジャですから、ドイツはそこをケアしてくるでしょうね。トーレスが抜けた試合がどうなるのかわかりませんが、ビジャのワントップの方がいいでしょう。今は五分五分だと見ています。

金子：なるほど。では準決勝第2試合に注目しましょう。

+++++

金子：前半終わって0：0。前半はドイツはかなりひいていたようですが。

岡野：そうでしたね。あまり前半から荒れた試合にはしたくなかったんでしょう。荒れたと言えば、ドイツのゴール前のピッチがかなり荒れてましたので、後半スペインは要注意ですね。

金子：なるほど。しかし、後半のドイツはどうでしょう。

岡野：もちろん、もう少しピッチをあげるでしょうが、今のままでもチャンスは作れると思います。

金子：一方のスペインは？

岡野：かなり勝機ができましたね。もう少しミドルシュートを放って、DFを手前に呼び出した方がいいのではないですか。

金子：ドイツは攻められているようで、要所は押さえていました。

岡野：省エネで戦っていますね。作戦通りというおろではないでしょうか。DFがあわてるというシーンがあまり見られませんでした。メルテザッカーの大きさがきいてますね。

金子：高さではなくて大きさですか

岡野：ええ。いるだけでシュートコースの半分を隠してますね。股間を狙うしかない。もちろんそれを狙える才能がスペインには集まっています。それに守備が素晴らしいですね。パスワークに目がいきがちですが、守備も今大会屈指とっていいでしょう。

金子：うまさのスペインか、強さのドイツか。では後半を見てみましょう。

+++++

金子：ついに歴史の扉が開きました。スペイン見事な勝利です。

岡野：そうでしたね。初のアフリカ大会にふさわしく、新しい世界王者が誕生することになりましたね。

金子：さしものゲルマン魂も追いつけませんでした。

岡野：なによりも、素晴らしいのはスペインの守備でした。しつこく食い下がって、ドイツのパワープレイを許さなかったですね。やはりミューラーの不在は響きました。エジルとのコンビネーションができなかったことと、スペインのポドルスキーへのマークが非常に厳しかった。

金子：岡野さんご指摘のチェンジオブペースは、プジョルが実現しましたね。インスウィングのコーナーキックから見事にヘッドを決めました。

岡野：まったくノーマークでしたね。まさか高さのドイツに対して、球をあげるコーナーキックをしてくるとはドイツも思わなかったんじゃないですかねえ。スペインの執念がプジョルに移ったようなゴールでしたね。終盤はドイツに疲れが見えましたが、スペインは運動量が落ちませんでした。明らかに壁を越えた戦いぶりだったと思います。

金子：これで、決勝戦はオランダVSスペイン これも実に見応えのあるカードになりました。いったいどちらがポゼッションをとるのでしょうか。

岡野：おそらくスペインだと思います。オランダはブラジル戦のような戦い方をするんじゃないでしょうか。

金子：トーレスとファンペルシー、どちらも今大会もうひとつのFWです。

岡野：スペインは外してくるでしょう。オランダも変えてくるかもしれません。

金子：もうひとつ我々にとっての興味は、その試合を西村主審たちのチームが笛を吹く可能性がでてきたということです。

岡野：スペインが前の試合で西村さんへの評価が低かったのが気になりますが、そうなれば嬉しいですね。

金子：はい。決勝戦は7月11日 サッカーシティで行われます。それではみなさんごきげんよう。さようなら。

(この話はフィクションです)

オランダVS.スペイン 決勝戦

金子：全国のサッカーを愛する皆さん、こんにちは。

1ヶ月に及ぶ熱き戦いも、いよいよ残り1試合となりました。FIFAワールドカップ2010 南アフリカ大会の決勝戦が始まります。いつものように解説は、日本サッカー協会最高顧問岡野●一郎さんにお願いいたします。岡野さん、ついにこの日がきましたね。

岡野：そうですね。はやる気持ちもあれば、まだこれで終わりにほしくないような気持ちが入り交じりますね。オランダとスペイン。どちらが勝っても悲願の初優勝ですから、世界中が固唾をのんで見守っていると思いますね。

金子：さて、もうお一方、本日はものすごいゲストをお招きしました。オランダが誇る世界のスーパースター、ヨ●ン・クライフさんです。クライフさん、よろしくお願いたします。

(通訳略)

クライフ：お招きに感謝いたします。この世紀の一戦を日本の皆さんといっしょに楽しむことができることを、喜ばしく思っています。

金子：母国オランダにとっては、待ちにまった優勝をかけての一戦となりますね。クライフさんが活躍された1974年大会、そして1978年の決勝戦以来の戦いの場です。

クライフ：ええ。そうです。オランダが再びこの舞台にたてることを誇りに思います。

金子：ですが、クライフさんご自身は、スペイン有利という予想をされていると伺いましたが。

クライフ：そうですね。ええ。その通りです。今のスペインは完成されたサッカーをしていると私は考えています。若い世代の頃から共に世界の頂点を手にしてきたメンバーが集まっていますから、チームワークの面でも申し分がありません。その多くが国内リーグで活躍していますので、日本のような海外組や国内組とのすりあわせというような問題もないわけです。

金子：なるほど。そのあたり、いかがですか。岡野さん。

岡野：確かにスペインリーグ、リーガエスパニョーラは世界最激戦の戦場ですから、そこでの戦いが彼らを鍛えていると思いますね。それにクライフさんのおっしゃる、勝ち方、負け方の美学を、今のスペインはもっているように思います。現代のサッカーに必要なイメージーションとそれを体現する技術という点でも、スペインに部があると思えますね。

ただ、クライフさんの発言は、自国を鼓舞する意味も含んでいると思いますよ。

金子：ええ。クライフさん、オランダに勝機はないのでしょうか？

クライフ：もちろんあります。必ずどちらかが勝つと決められるほどサッカーは簡単ではありません。攻撃陣でいえば互角といってもいいでしょうね。オランダのミドルレンジ以上のシュートは、どんなチームにとっても脅威だと思います。ただ、スペインのパス回しの早いサッカーは、華麗なだけではなく、知らぬ間に相手のスタミナを奪うという効果もあるんです。肉体的にも精神的にも大きなプレッシャーとなります。

金子：ボクシングでいうジャブですね。

クライフ：まさしくそうです。しかしスペインは普段からスピードとスタミナとを常に要求されるリーグで戦っていますので、最後は有利になると思います。オランダは早めにリードを奪わないと、反撃に転じようとしたときに、リズムを出せない可能性があります。ドイツがそうでした。逆に先制点を先にあげれば、その負担は減りますので、いい試合になるでしょう。なにしろどちらも初優勝のかかった試合です。非常にタフな試合になるのは間違いないでしょう。

金子：ではクライフさんにはまた後ほど伺うとして、岡野さんは今日の試合についてはいかがですか。

岡野：私は始めから点の取り合いになるのではないかと思います。結果どうなるかは別ですが、相手の出方をうかがうというような展開は、しないのではないのでしょうかね。これまでの戦いで、勝利のために何が必要かはお互いにわかっています。ですから失点のリスクよりも先制点を狙うのではないですか。

金子：ということは、見ていて楽しいに試合になる。

岡野：ええ。守勢に回った方がファウルも犯しやすくなるわけですから。危険度も高い。

金子：そういえば、西ドイツ大会の最初の2得点はお互いのPKでした。そういう波乱も過去の決勝戦では多かったですね。キーマンは誰でしょうか。

岡野：スペインでいえばシャビとイニエスタ、オランダはシュナイデルです。彼らが全体のリズムを作っていると思います。

金子：クライフさんはどう思われますか？

クライフ：そうですね。シュートの多い試合になりそうですから、ゴールキーパーのできもキーポイントになりますね。あとは、クロスバーとポストですね（笑）

金子：あはは。つまり、神を味方にした方ということですね。確かにこの大会ではいつも以上に紙一重のシュートが多いですからね。

岡野：ええ。ただジャブラニに対してはだいが選手たちは慣れてきたように見えますね。とんでもないパスミスは減ったようです。

金子：ブゼラ、ジャブラニ、そしてオクトパス。あとでこの大会を思い浮かべるキーワードがたくさんあった1か月でもありましたね。

岡野：本当にそうでしたね。それもあと1試合です。

金子：まさに心待ちと寂しさ、興奮と緊張とを一度に味わう決勝戦です。第四の審判には日本の西村さん。これも我々にとっては記念すべきことだと思いますが。

岡野：はい。快挙だと思いますよ。

金子：それでは選手の入場が始まります。世界最高峰のサッカーの夢の舞台を心ゆくまで味わいましょう。

+++++

金子：前半を終えて0:0です。岡野さん。

岡野：シュート数がこれだけ少ないのは意外な展開でしたが、それだけ中盤でのボールの取り合いが激しいということでしょうね。

金子：クライフさんの目にはどのように映りましたか。

クライフ：そうですね。オランダはイエローカード覚悟でよく守ったと思います。ビジャが何度か裏のスペースをとりにいきましたが、オランダの集中力は切れていませんでした。中盤以降、スペインが包囲網をややゆるめたのでボールももてるようになったと思います。ですがスペインはまだトップギアには入れておりません。オランダの中盤の動きが止まったとみるや否や攻撃をしかけてくるでしょう。

金子：オランダの方は？

クライフ：オランダもシュナイデルとロッベンが仕掛けただけで前線に厚みをもたらした攻撃をしていませんから、まだですね。シャビのマークにシュナイデルが奔走しているので、攻撃への余裕がありません。もう少しミドルシュートを使った方がいいと思います。問題は、後半体力が残っているかどうかです。疲れてくると動作が1歩後れてしまい、意図していないファウルやイエローカードがでます。お互い守りに重要な選手がカードをもらっていますので、2枚目がでる可能性もありますね。

金子：では、後半を見てみましょう。

+++++

金子：決勝戦はとうとう、延長戦となりました。

岡野：両GKのファインプレーが光りましたし、お互い疲れもあってか決めきれませんでした。しかし、この試合をPK戦にはしたくありませんね。

+++++

金子：延長後半 ついに、均衡が破れました。決めたのはイニエスタ。オランダのロッベンやシュナイデルらの足が止まっても、スペインのイニエスタとシャビの足は止まりませんでした。

岡野：クライフさんの言ったとおり、最後はスタミナに差ができましたね。

金子：そしてここで試合終了のホイッスル。予選リーグ初戦のスイス戦を落として、一時はリーグ敗退も危ぶまれたスペインが、見事に世界の頂点に立ちました。

岡野：華麗なパスサッカーが世界を制した瞬間でもありますね。

金子：そしてオランダは三度挑み、三度跳ね返されました。クライフさん いかがでしたか。

クライフ：複雑な心境ですが、やはり内容的にもスペインが上回っていたと思います。守備も最後まで粘り強く、ラインも崩れませんでした。オランダもよくやりましたが、戦術とはいえカードが多すぎます。結局最後は一人の退場者を出して、得点するチャンスがリスタートだけになってしまいました。

金子：何が不足していたんでしょうか。

クライフ：オランダとしては不足なものはありませんでしたが、スペインはそれ以上に持っていたんだと思います。結局後半のシュナイデルからロッベンへのあのパスが、唯一のチャンスであり、効果的な連携でした。でもスペインは有効な連携を少なくとも6、7回は見せていました。そうした差だったと思います。

金子：今日は遠いところをありがとうございました。さて、岡野さん、スペインが勝てない無敵艦隊の汚名をついに返上しましたね。

岡野：スペインが追い求めてきた美しく、速いサッカーに、強いサッカーを加えた完成系をようやく見せてくれたと思います。欧州選手権とW杯の連続優勝は1974年の西ドイツ以来ですね。

金子：これで欧州対南米の優勝争いは、一步欧州がリードしました。

岡野：しかし、次回の開催は南米です。今このときから、その戦いが始まるっていいでしょう。

金子：はい、そして今回ベスト16まできた日本がどこまで成長するのか、それも楽しみです。

岡野：今回の日本はよく戦いましたが、逆に世界のトップの差も感じましたね。これからの4年間、行うべきことがたくさんありますね。

金子：はい。今ワールドカップをスペインのキャプテン、カシージャスが掲げました。この素晴らしいイレブンの姿を目に焼き付けながら、南アフリカサッカーシティスタジアムからの放送を終えたいと思います。

それでは、皆さん4年後まで、ごきげんよう、さようなら。

この話はフィクションです。登場人物等は全て架空です。

あとがき

中途半端な作品にもかかわらず、ごらんいただきありがとうございました。
これはワールドカップ開催中に、ブログにライブで書いたものを加筆・修正したものです。
途中からこの形式を採用したので、予選リーグの分がありません。

中高年以上のサッカーファンの皆さんと同様に、私もダイヤモンドサッカーを通じて、世界のサッカーのレベルの高さを知り、その魅力にとりつかれました。解説の岡野俊一郎さんと金子勝彦アナの豊富な知識と耳にやさしい語り口が、私にサッカーの奥深さを教えてくれたものです。

そんな私にとりましては昨今の民放のサッカー放送はまったくなじめません。お笑いタレントが「すげえ」「やべえ」と言っているばかりで、何を視聴者に伝えようとしているのか皆目わかりません。これではサッカーも流行の対象とされてしまい、国民に根付いたものにならないのではないかと危惧しています。

「メッシカッコいい！ ゴールキーパーだよね」なんてことになってしまうのではなかろうかと。

アルゼンチンVS.ドイツ戦、アナウンサーは終始「メッシは何をやってくるかわからない」と連呼したまま、結局メッシはなにもやらせてもらえませんでした。いくら相手がスーパースターであってもこれでは偏りすぎです。

「ダイヤモンドサッカーだったら、なぜメッシが本領発揮ができないのか、語ってくれたらうな」と思います。

私はサッカー関係で数年間、金子勝彦さんとお仕事をさせていただきました。ご存知のように、「ワンツーリターン」という言葉を作った方でもあります。お酒をごいっしょしても、いつもサッカーを熱く語り、深い造詣を披露してくださいました。日本のサッカーについても期待と不安を語ってくれました。

こういう気持ちで、番組づくりをされていたんだな。そういう放送を見ることができて幸せだったなと何度も思ったものです。

もう一度あんなサッカー番組をみたい。そう思ったときに、このフィクションができました。他の試合のものもありますが、長くなるので4試合ピックアップいたします。